

成果報告書

| | | | |
|--------|---------------|------|---------------------------------------|
| 団体名称 | 公益社団法人 日本将棋連盟 | | |
| 担当者連絡先 | 普及部普及課 | 三浦麗央 | (TEL) 03-3408-6165 (FAX) 03-3404-7301 |

事業概要

| | | | |
|--------|-------------------------------|---|--|
| 事業名 | 動画配信・オンライン学習ツールを活用した将棋文化の学習事業 | | |
| 事業期間 | 令和3年2月4日 ~ 令和3年3月31日 | | |
| 事業の必要性 | 本事業の実施意義 | <p>本事業は日本人が日本の伝統文化・大衆娯楽である将棋について興味・関心を持ち、学ぶ機会を創出することは非常に重要であると考えます。本事業を国の委託事業として実施することにより日本人が将棋の持つ文化的な価値を再発見・再認識し、日本文化の維持・継承・発展に寄与することが期待できます。また、将棋に触れ、将棋文化を学ぶことで青少年の健全育成等、教育的側面の強化にもつながることが期待される。</p> | |
| | 団体の強み | <p>① 将棋専門棋士・女流棋士の対局の実施、将棋の普及や将棋文化の継承、資料文献データ等の保存、指導者の育成など、将棋に関する事業・活動の実績がある。また、大学等の教育・研究機関との連携によって将棋文化に関する分野の研究推進を図ってきた。</p> <p>② 日本将棋連盟では過去5回にわたって将棋文化検定を行ってきた。延べ3,000名以上の申し込みがあり、参加者からは大変好評であった。これは人々が将棋文化に高い関心を持つことを裏付けるとともに、収益化への活用の可能性を感じさせるものである。</p> <p>③ 小中学校をはじめとする学校教育に将棋を導入し、将棋文化の教育的活用を推進してきた。将棋には思考力・集中力・決断力・洞察力の養成や、日常生活での礼節などを身につける教育的側面から「相手を思いやる心」を育み、青少年の健全育成に寄与してきた。</p> | |
| | 事業の狙い (事業企画理由) | <p>新型コロナウイルスの影響により、第6回将棋文化検定が中止となったことを受け、本年度の開催を楽しみにしていたお客様や将棋文化に関心を持つ方々に自宅で楽しんでいただくことができるプログラム(代替案)として企画した。</p> <p>① 「春のオンライン将棋ゼミ」では棋士と参加者が将棋にまつわる文化・知識をオンラインで棋士と共に学習する。この企画により、毎年受検しているお客様を繋ぎとめると同時に、遠隔地等で今まで検定受検を諦めていたお客様が受講することにより、新たな受検者の獲得にも繋げたいと考えている。更に、検定にとらわれず将棋を通じた日本文化への理解と知識習得、興味喚起として本企画・システムを活用したいと考えている。</p> <p>② 「動画で学ぼう!将棋文化」は、将棋文化をジャンル分けし、各ジャンルについて10~15分程度で学ぶことができるようにする。これまで将棋文化に</p> | |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>まつわる情報をまとめた動画教材等は存在しなかったため、新たな試みである。</p> <p>いずれもオンラインツールを活用することにより、コロナ禍での減収対策にとどまらない新たな収益事業として継続的に展開したいと考えている。</p> |
|--|--|---|

企画①

| | |
|-----------|--|
| 企画名称 | 春のオンライン将棋ゼミ |
| 期間 | 令和3年3月13日(土) |
| 実施場所 | 将棋会館(東京都渋谷区千駄ヶ谷2-39-9) |
| 受講人数(充足率) | 100名(約71%) 第一部35名(100%)、第二部21名(60%) 第三部16名(約46%)、第四部28名(80%) |
| 料金等 | 第一部・第二部(入門編) 各4,000円/定員各回35名 第三部・第四部(上級編) 各5,000円/定員各回35名 |
| 売上 | 計444,000円 |
| 概要 | 第一部・第二部は入門編として、将棋の成り立ちや変遷、用具や所作について講義・解説を行った。 第三部・第四部は上級編として、史料をもとに学術的視点から将棋系遊戯の誕生や将棋の文化的側面(浮世絵や川柳などに登場する将棋)について講義・解説を行った。 |
| 出演者 | (講師) 第1部・第2部 高野秀行(将棋棋士六段) 第3部・第4部 古作登(大阪商業大学公共学部助教) (出演) 第1部 佐々木勇氣(将棋棋士七段)・黒沢怜生(将棋棋士六段) 第2部 都成竜馬(将棋棋士七段)・斎藤明日斗(将棋棋士四段) 第3部 杉本昌隆(将棋棋士八段)・高見泰地(将棋棋士七段) 第4部 山崎隆之(将棋棋士八段)・佐々木大地(将棋棋士五段) |
| 総括 | オンラインで将棋文化について学ぶ企画の実施は初めてであったが、大きなトラブルもなく終了することが出来た。 終了後アンケートの結果から、将棋文化への興味喚起として一定の効果を得られたと考えられる。 一方で、今後継続的に展開するうえでは、時間設定・定員設定や参加費などの見直し等が必要である。 |

「春のオンライン将棋ゼミ」出演者

【講師】



第一部・第二部講師：高野秀行（六段）



第三部・第四部講師：古作登（大阪商業大学公共学部助教）

【参加棋士】



第一部参加棋士：佐々木勇氣（七段・左）、黒沢怜生（六段・右）



第二部参加棋士：都成竜馬（七段・左）、斎藤明日斗（四段・右）



第三部参加棋士：杉本昌隆（八段・左）、高見泰地（七段・右）



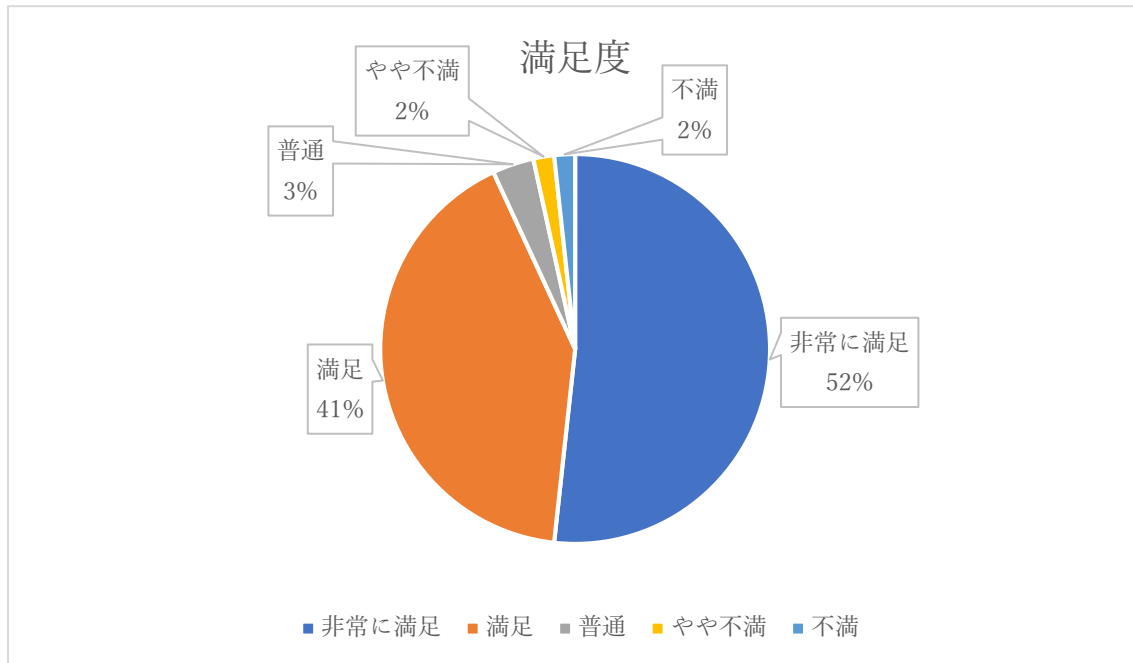
第四部参加棋士：山崎隆之（八段・左）、佐々木大地（五段・右）

参加者アンケートの結果と分析

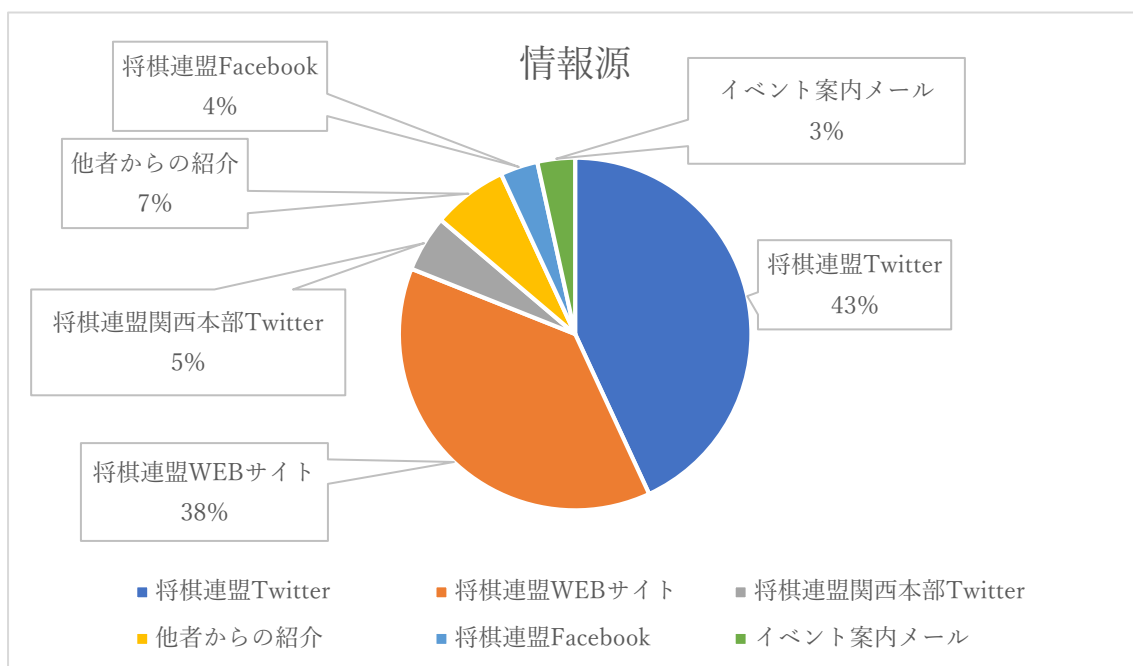
対象者：「春のオンライン将棋ゼミ」参加者 100 名

方法：Google フォームを利用したアンケート（無記名式）

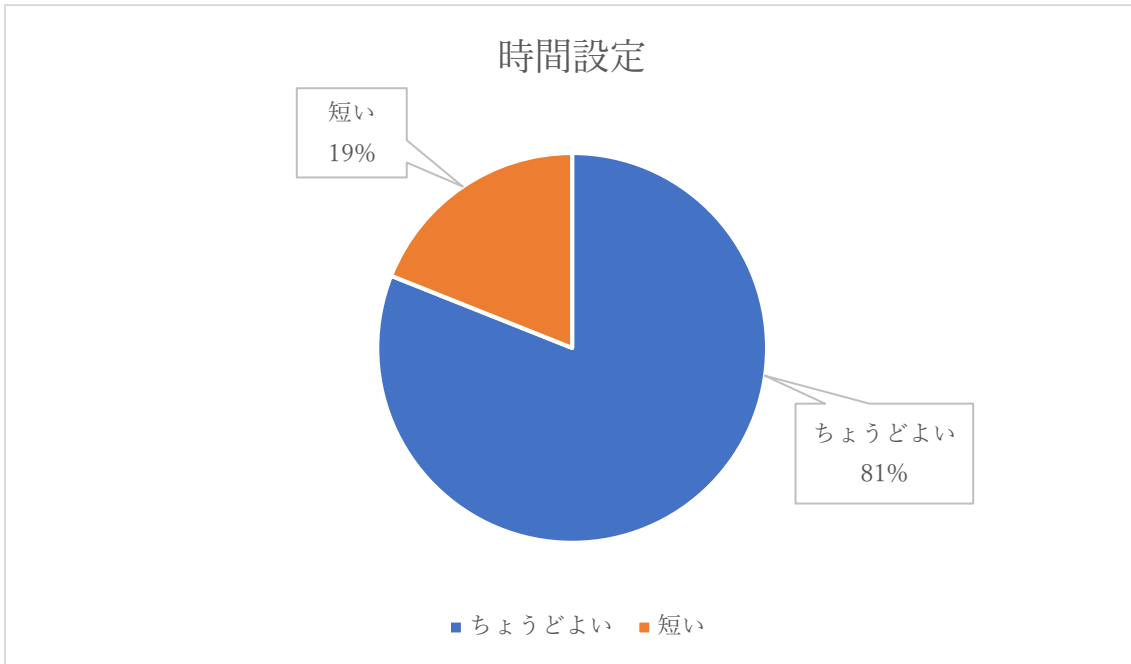
回答数（回答率）：58 名（58%）



「非常に満足」と「満足」を合わせて90%を超える結果となった。
一方で「やや不満」、「不満」との回答もあり、その理由を分析し、今後の展開に向けて改善を図りたい。

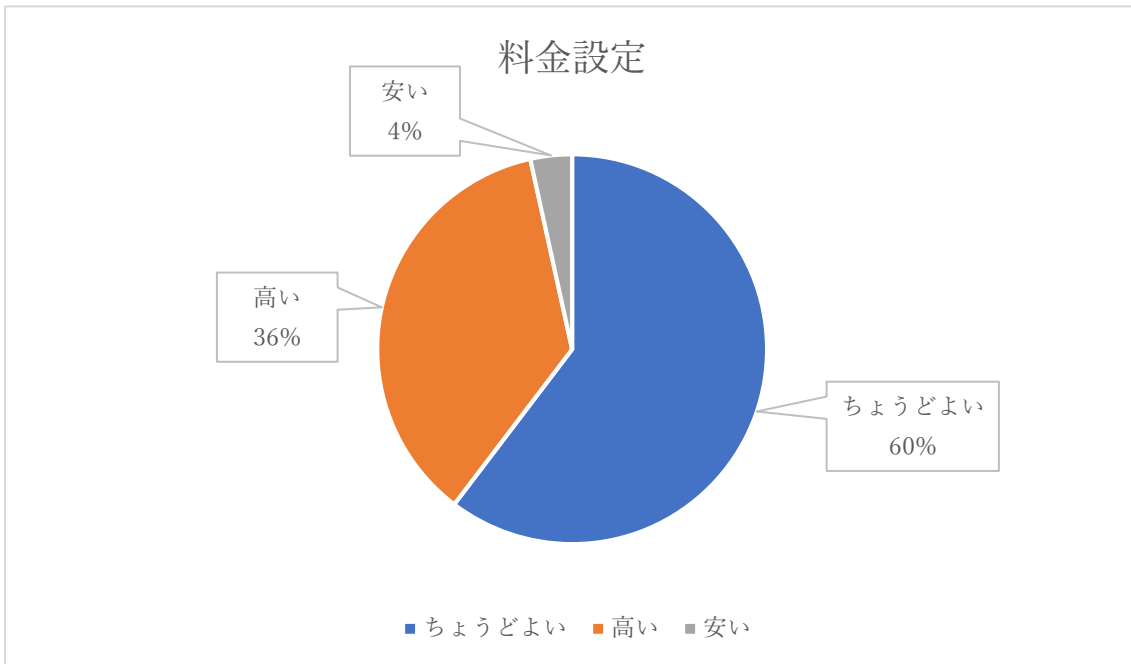


SNS（Twitter・Facebook）を通じて本企画を知ったという参加者は回答者の半数以上であった。



8割は「ちょうどよい」と回答。

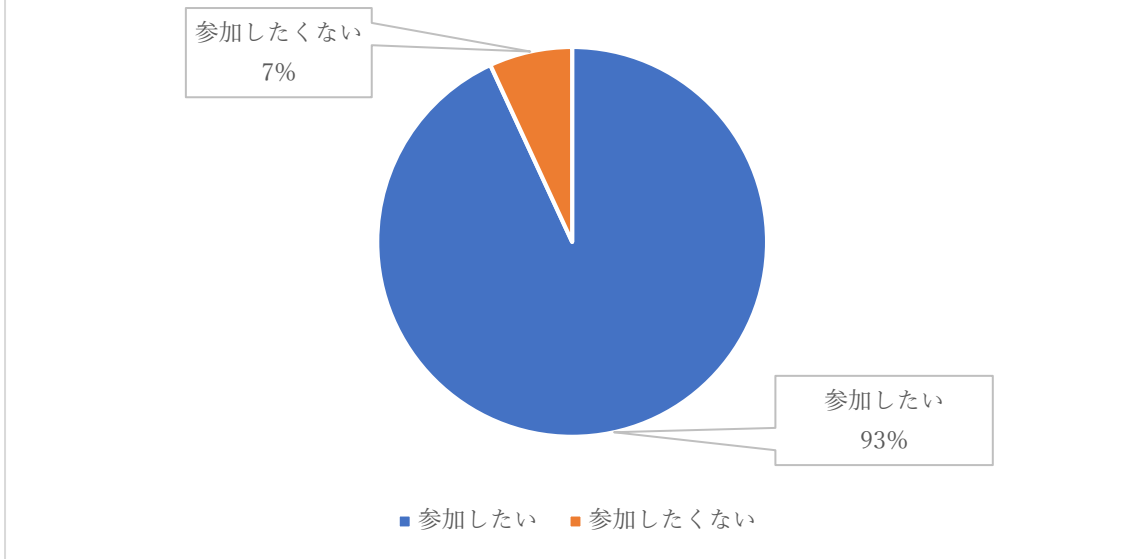
一方で「より深く、じっくりと学びたい」と考える参加者からは「短い」との回答も。



6割は「ちょうどよい」と回答したが、「高い」との回答も多く、料金設定については今後検討が必要。

※「時間設定を長くする」、「内容をより深いものとする」、「料金を安くする」などの方法。

今後も同様のイベントに参加したいか



9割以上から「また参加したい」との回答があり、継続的な実施の可能性が見えた。

リピーター向けの講義（連続性を持たせた内容）と新規参加者獲得のための取り組みを並行的に実施することも重要である。

企画②

| | |
|------|---|
| 企画名称 | 動画で学ぼう！将棋文化 |
| 期間 | 令和3年3月収録開始 |
| 実施場所 | 将棋会館（東京都渋谷区千駄ヶ谷2-39-9） |
| 料金等 | 動画1本あたり1,000円を予定 現時点で18本分の収録は完了、編集作業中 |
| 概要 | 「将棋の日本伝来」や「中世将棋界」、「近世将棋界」などの将棋史から「将棋の道具」や「所作」、「将棋にまつわる言葉」など様々なテーマで将棋をより深く学ぶ動画を制作。（1動画15~20分） |
| 出演者 | （講師） 堀口弘治（将棋棋士七段）、勝又清和（将棋棋士七段） 高野秀行（将棋棋士六段）、古作登（大阪商業大学公共学部助教） （聞き手） 中村太地（将棋棋士七段） 香川愛生（将棋棋士女流四段）、宮宗柴野（将棋棋士女流二段） 貞升南（将棋棋士女流二段）、安食総子（将棋棋士女流初段） 和田あき（将棋棋士女流初段） |
| 総括 | 当初10本の動画制作を予定していたが、講師との調整の過程で18本の動画制作を行う（動画内容の細分化・充実を図る）こととなり、当初想定よりも時間を要した。 また、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発令や公式戦（対局）による出演者（棋士・女流棋士）や撮影会場（対局室）の調整の難航を受け、日程が後倒しとなった。 編集作業についても、企画段階と比較して動画本数が増加したことから、遅れが生じている。 |

動画テーマ

1 本目「将棋の日本伝来」 講師：古作登 聞き手：中村太地

インドの「チャトランガ」を起源とするチェス・将棋系遊戯の誕生と日本将棋の成り立ちについて学ぶ。

2・3 本目「中世将棋界（前後編）」 講師：高野秀行 聞き手：香川愛生

前編では将棋の伝来から戦国時代まで、後編では戦国時代から江戸時代にかけての将棋の発展について史料をもとに学ぶ。

4 本目「近世将棋界」 講師：古作登 聞き手：中村太地

明治・大正期の将棋界の変遷について新聞将棋の盛栄を中心に学ぶ。

5 本目「昭和の将棋界」 講師：古作登 聞き手：中村太地

昭和の将棋界について「実力制名人戦」、「タイトル戦新設」などをキーワードに学ぶ。

6・7 本目「平成の将棋界（前後編）」 講師：勝又清和 聞き手：宮宗柴野

前編では谷川、羽生らによるタイトル戦の展開、後編では渡辺、藤井らの台頭を中心に平成の将棋界の移り変わりを学ぶ。

8 本目「令和の将棋界」 講師：勝又清和 聞き手：宮宗柴野

4強時代といえる令和の将棋界およそ2年の出来事を振り返る。

9・10 本目「世界の将棋（前後編）」 講師：堀口弘治 聞き手：和田あき

共にインドの「チャトランガ」を起源として世界各地に存在する将棋の仲間を日本将棋との比較や独特な変化などに着目して紹介する。

11 本目「将棋の用語」 講師：堀口弘治 聞き手：貞升南

将棋用語、将棋を起源とする言葉、違った意味を持つ言葉などをクイズ形式で学ぶ。

12 本目「将棋の所作」 講師：堀口弘治 聞き手：貞升南

対局の所作（礼儀作法）を実演し解説します。

13 本目「将棋の道具」 講師：堀口弘治 聞き手：貞升南

身近なプラスチック製駒からタイトル戦で使用される盤駒まで、さまざまな将棋用具を紹介する。

14 本目「詰将棋の歴史」 講師：勝又清和 聞き手：安食総子

古くは江戸時代の献上図式から現代の作品集まで詰将棋の歴史と魅力を学ぶ。

15・16 本目「居飛車の歴史（前後編）」 講師：勝又清和 聞き手：安食総子
前編では昭和までの居飛車戦法、後編では平成から令和の最新戦法・流行戦法を学ぶ。

17・18 本目「振り飛車の歴史（前後編）」 講師：勝又清和 聞き手：安食総子
前編では最古の棋譜から昭和までの振り飛車、後編では平成以降の振り飛車の変革について学ぶ。

《サムネイル画像 ※一部》



事業総括

| | |
|----------------|--|
| <p>事業実施の工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで大都市圏に限られていたイベント開催から、オンライン会議システム (Google Meet) を活用することで地域を問わず多くの参加者とともに将棋文化を学ぶ機会を創出した。 ・棋士が参加することにより、棋士ならではの疑問点や考え方が新たな視点として学習の深化に寄与することを期待した。 |
| <p>事業の成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・将棋連盟として初めてのオンラインツールを活用した将棋文化学習企画を実施することが出来た。 ・参加者へのアンケートにより、企画の継続的な実施に向けたデータ収集を行うことが出来た。 ・棋士個人の有する貴重な史料や将棋用具等を映像資料として保存することが出来た。 ・大学等で講義を担当する棋士がそれぞれ有する知識や教養を集め、教材や資料として活用することが出来るようになった。 ・将棋文化に関する史料保有者（研究機関等）からの資料や複写の貸借等の協力を得た。また、今後の継続的な連携の礎を築くことが出来た。 |
| <p>継続にあたって</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者へのアンケートの結果や講師、出演棋士の意見を踏まえ、今後も継続して本事業を展開していきたい。 ・今後新たなテーマの動画を制作予定。また、現在の将棋界の様子や戦形の変遷などは、定期的な更新が可能なテーマである。 ・将棋連盟が行っている「将棋文化検定」との組み合わせを行うことで、動画の販売促進と検定の受検者増を図りたい。 ・棋士が参加者と共に学ぶ形式をとることで、「棋士との交流」という側面を持たせる。 ・連続講座など一つのテーマを深く掘り下げる企画についても検討する。 ・オンラインゼミについては実施方式や内容の検討、時間設定や価格設定の見直しを行い、参加者数の増加及び満足度の向上を図る必要がある。 ・企画調整～撮影～編集～確認～販売という一連の流れを円滑に行う。 ・動画の販売促進策について検討が必要となる。（キャンペーン等） ・近年いわゆる「観る将」と呼ばれる、新たな将棋ファンが増加しており、この層をうまく取り込んでいく工夫が必要となる。 ・実地開催を含めた今後の展開を想定する必要がある。 |